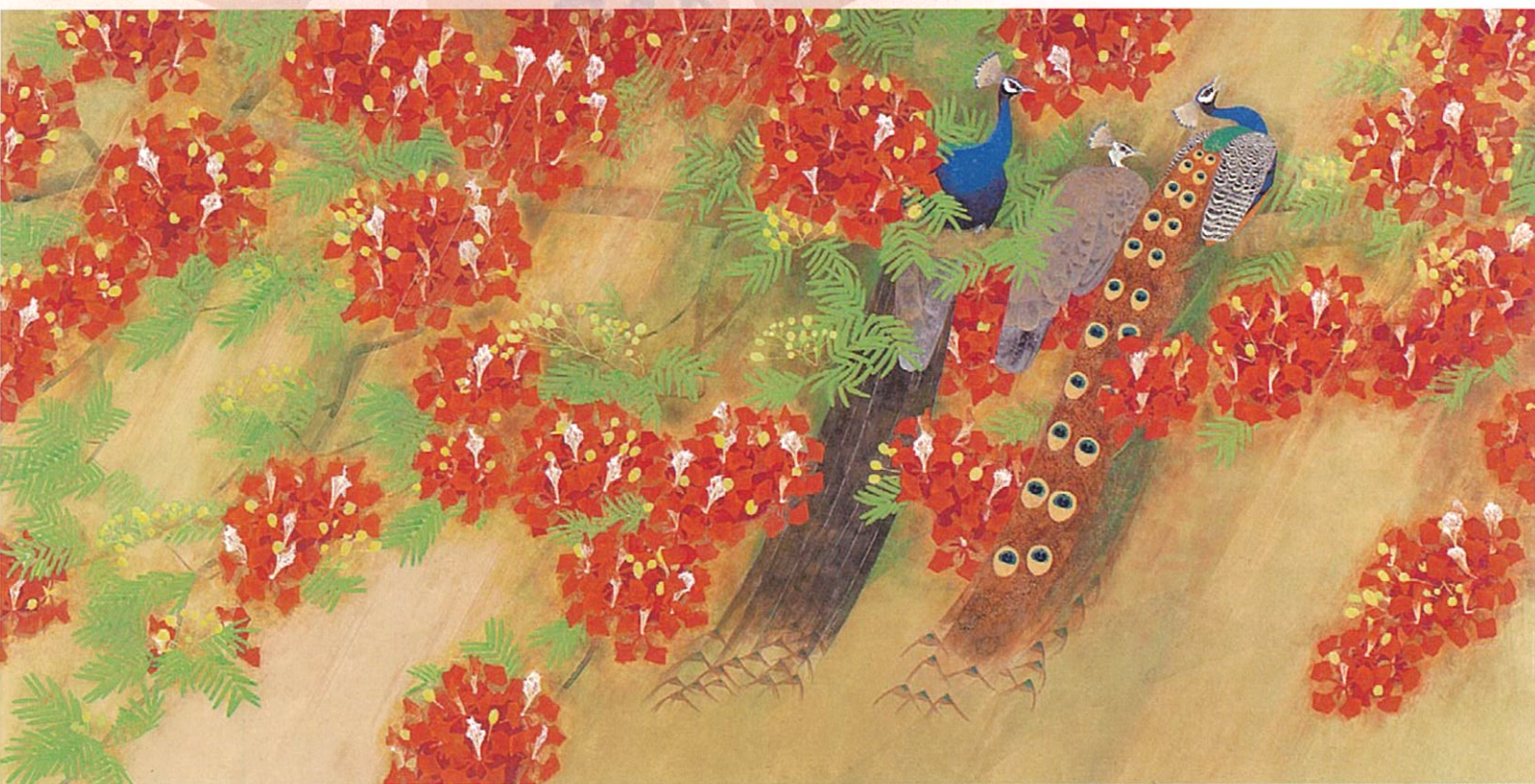


上村松篁展

「美の構成」に

触れる



上村松篁「霖雨」 昭和47年

令和3年**11月2日**(火)——令和4年**2月6日**(日)

年末年始(12月27日(月)―1月3日(月))休館

【休館日】月曜日(ただし、1月10日(月・祝)は開館し、翌1月11日(火)が休館)

【開館時間】10時～17時(入館は16時まで)

【入館料】大人(高校生・大学生を含む)820円/小・中学生410円

【主催】公益財団法人 松伯美術館

松伯美術館

SHOUHAKU ART MUSEUM



奈良県みなたのしむ
美術館

上村松篁(1902~2001)は日本画家・上村松園の長男として京都に生まれ、近現代の京都画壇において格調高い花鳥画を描き続けました。幼少期からの精緻な観察力と伝統的な円山四条派の写生を軸に、近代的な構成を持つ洗練された花鳥画のスタイルを確立します。

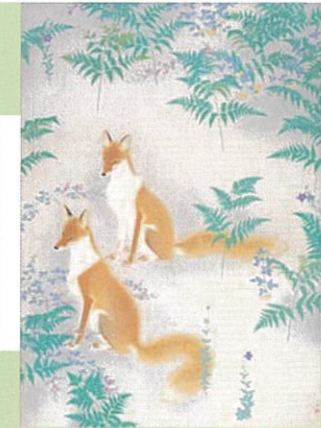
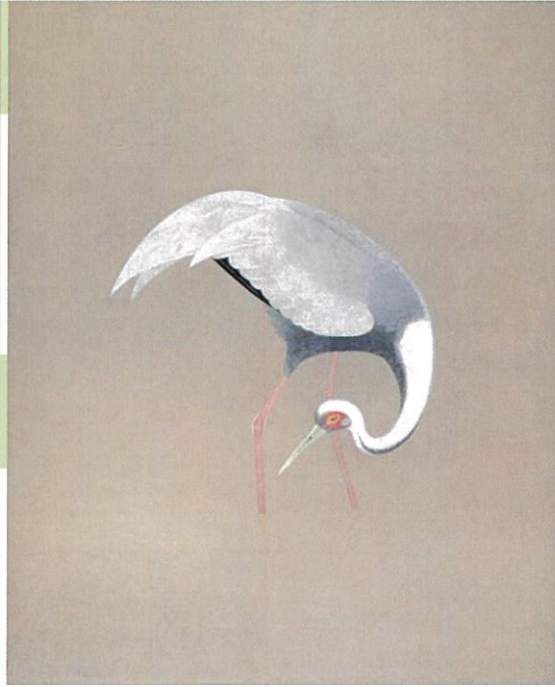
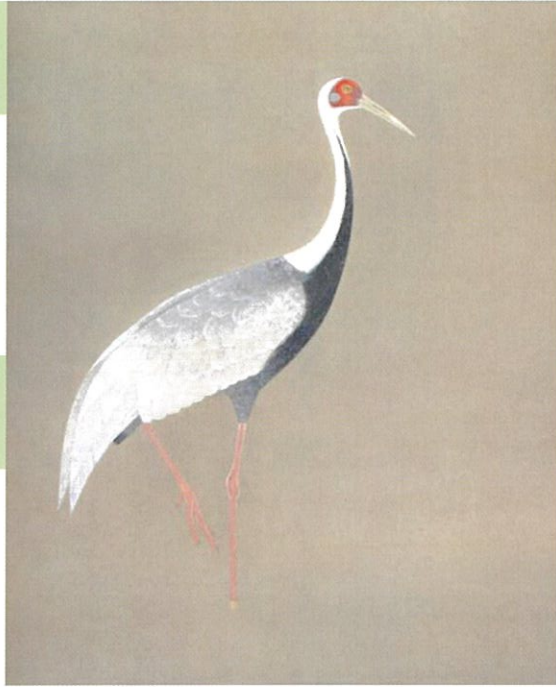
写生について松篁は次のように述べています。

「微にしてよく真を伝えるという言葉があるが、綿密にもものを観察することは必要である。しかし捉われてはいけない。博物標本に終ってはいけない。写生はむしろその中から美の組織を見出すことである。心や目が濁ってはいは真にふれることはできない。純真無垢で一心不乱に打ち込むことによって、いつか彼我合一の三昧境地に

入り、心眼が自然のいのちを感得するようになる。画はそこから生れてくるのである。」(上村松篁著「鳥語抄」より)

本展では、松篁の本画をはじめ、その制作の過程を知ることのできる素描や下絵をあわせて展覧し、伝統の中で生まれ、自然の神秘に触れて織りなす松篁芸術の「美の構成」に迫ります。

上村松篁展 「美の構成」に触れる



- 上村松篁
- 1 「真鶴」 昭和55年(1980)
 - 2 「椿」 大正13年(1924)
 - 3 「舞汀雨情」 昭和9年(1934)
 - 4 「早秋」 昭和16年(1941)
 - 5 「鶯鶯」 昭和40年(1965)
 - 6 「白木蓮」 昭和50年(1975)

松伯美術館

SHOUHAKU ART MUSEUM

〒631-0004 奈良市登美ヶ丘2丁目1番4号 Tel.0742-41-6666

【交通】近鉄奈良線(学園前駅)北口バスターミナル⑤・⑥番のりばよりバス約5分、(大洲橋(松伯美術館前))



公式HP

松伯美術館 検索



次回展覧会

令和4年
2月11日(金・祝)~3月13日(日)

未来につなぐ
日本画展